

市町村名		大宜味村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	大宜味村観光情報発信整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
担当部署名	産業振興課・企画観光課	事業実施(予定)年度	平成24~30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光資源(文化財、自然資源、特産品、体験事業)などの情報をより効果的に広く発信するため、大宜味村産業まつり及びPRイベントを開催し、交流人口の増加を促進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,650	1,650	7,706	9,550	12,550
		(b) 予算現額	1,650	1,650	7,310	9,550	12,550
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 396	0	0
		(d) 繰越額	—				
	A. 計(b+d)		1,650	1,650	7,310	9,550	12,550
	B. 執行済額		1,650	1,650	7,310	8,525	9,138
	うち交付金充当額		1,320	1,320	5,848	6,820	7,310
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	89.3%	72.8%
予算の状況の説明		・産業まつりについては当初計画していた事業内容はすべて実施した。 ・PRイベントについては、開催回数を前年度よりも増やしたことにより、実施規模を見直し予算調整を図ったことによる事業実績となる。不用額については、当初参加予定していた人数及び、旅費、委託料の見直しにより、費用を低廉に抑えるよう努めたことによる不用である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	産業まつり誘客イベント開催支援	目標	(3イベント)	(3イベント)	(開催)	(開催支援)	
		実績	3イベント	3イベント	実施	実施	
PRイベント開催支援	目標	()	()	(開催支援)	(開催支援)		
	実績			実施	実施		
達成状況説明	・産業まつり:平成31年1月19、20日(2日間)誘客増のための、①ステージイベント→大宜味村特産品セリ体験を実施(シークワサー苗・野菜)。②会場活用イベント→子供たちを対象とした木工体験や、重機の操作などを体験できる「わじゃキッズ」を実施。③会場イベント→村の特産品であるシークワサーの「接木講習会」を実施した。④会場活用イベント→村の特産品であるシークワサーの種を使って、種飛ばし大会を実施した。イベントを行うための会場設営費・放送費等を支援している。 ・PRイベント:①平成30年8月17日~19日(3日間) 逗子沖縄まつり 2,000人。②平成30年8月25日~27日(3日間) 前橋「琉球の嵐」2,000人。③平成30年10月6日~7日(2日間) かにえ町民まつり 3,000人。④平成30年10月20日~22日(3日間) 石巻大漁まつり 3,000人。⑤平成30年12月15日(1日間) やんばるアートフェスティバルオープニング音楽イベント 200人。⑥平成31年1月28日~29日(2日間) 羽田空港第1ビル 1,500人。⑦平成31年2月9日~11日(3日間) 西会津雪国まつり1,000人。⑧近畿⇒関西⇒関東PRキャラバン活動 23件						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(H23年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	大宜味村産業まつり来場者数	目標	(2,500人)	(5,000人)	(5,000人)	(5,500人)	()
		実績		5,500人	4,417人	4,734人	
	PRイベント来場者数	目標	()	(5,000人)	(4都市)	(15,000人)	()
実績			5,866人	7都市	12,700人		
進捗状況説明	・産業まつり:村と友好交流のある宮城県石巻市観光協会と漁協、秋田県湯沢市観光物産協会、福島県西会津町、愛知県蟹江町を招いてテナントブースにて特産品販売を行った。また、前年に引き続き子供たちを対象とした重機の操作などを体験できる「わじゃキッズ」を実施し、ファミリー層の誘客を推進したが目標達成には至らなかった、しかし2日間で来場者数は4,734人で達成率は86%となり前年度に比べて微増した。 ・PRイベント:平成30年8月~平成31年2月にかけて、8都市でPRイベントに取り組み、計8日間開催し、12,700人が訪れた。リピーターの来場も着実に増えているため、85%の達成率となっている。大宜味村の観光物産のPRを交流者にも実施できたと考えている。						

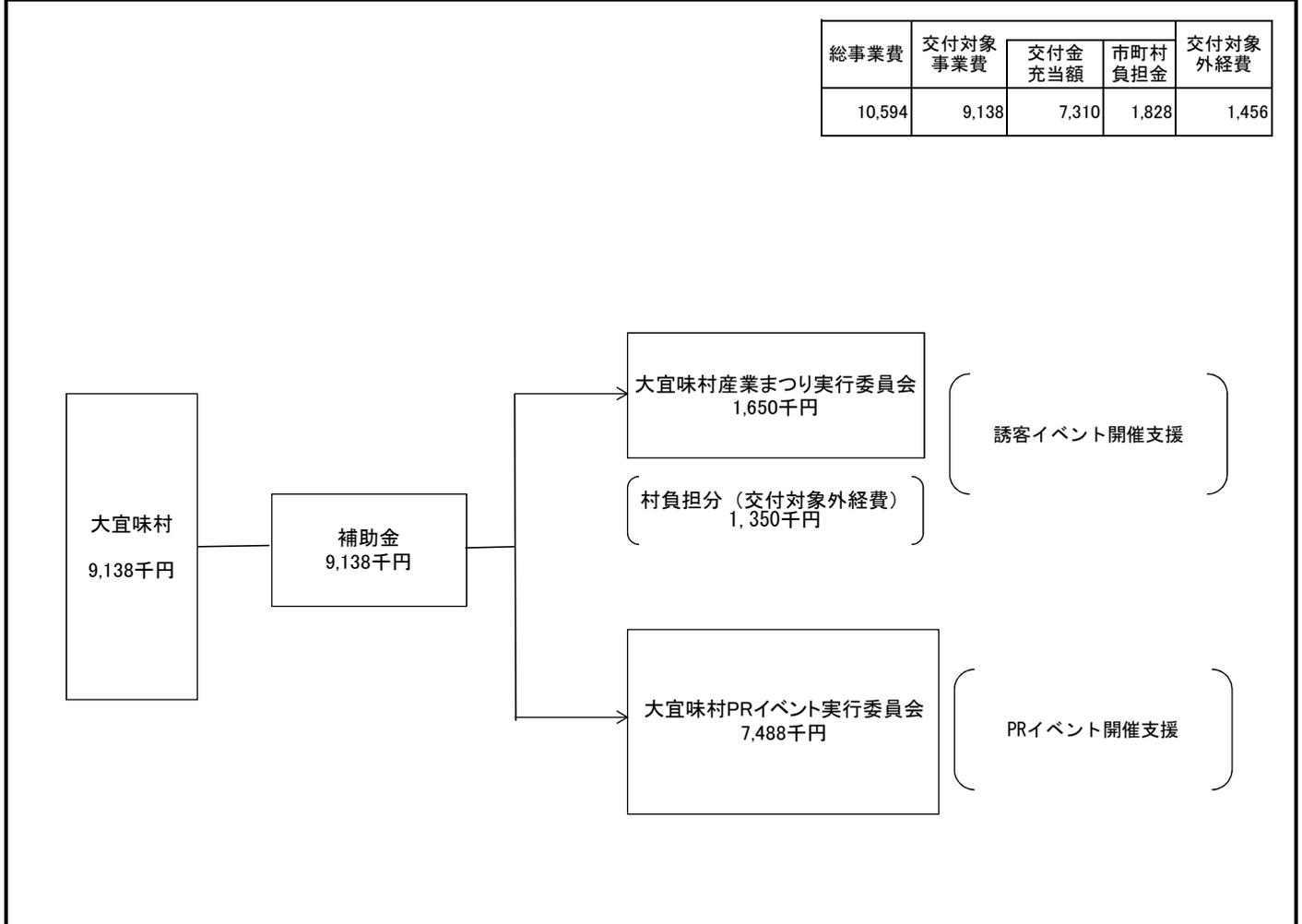
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(産業まつり) ①目標には届かなかったが、前年度に比べ微増している。子どもが楽しめる参加型のプログラムの実施と友好交流都市を招聘し特産品販売を行うことで多様な層の誘客に繋がっていると考える。	(産業まつり) ①・広報活動や周知の更なる強化を行い、大宜味村らしいイベントを定着化させる事により、村外来場者の固定化を促す必要がある。 ②現在、旧大宜味小学校グラウンドを会場に行っているが駐車場に限りがあり臨時駐車場等を新たに設ける必要がある。 ③まつり内にシンポジウム等産業関係のイベントをプログラム内に入れる事も必要。
	(PRイベント) 『大宜味村に行ってみよう！』と言われる、PRをする機会は得られたが、目標としている数値には届かなかった、イベント開催回数増に伴い来場者数も増加しており着実に大宜味村を知ってもらうことができています。	(PRイベント) ①より多くの方々へ大宜味村のPRをするために、開催場所について検討する ②来場者に対し、より効果的なPR方法の検証及び取り組み体制を見直して継続してPRイベントを実施する ③大宜味産の特産物及び物品販売の強化に取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

(産業まつり)
①駐車場を確保し、来場しやすい会場作りを図る。
②新たにオープンする「やんばるの森ビジターセンター(道の駅おおきみ)」での開催を調整。③まつりプログラム内でのシンポジウムではシークワサーの機能性の紹介と説明を有識者に依頼。

(PRイベント)
①令和元年度はイベント交流人口15,000人以上を目標に、より多くの方々に大宜味村をPRするため、大都市をはじめ新規開催地での実施を検討する。
②大宜味村の魅力PRするための強化をするため観光ガイドマップ等の活用に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は産業まつり実行委員会及びPRイベント実行委員会となっており、事業内に沿って妥当であった。 ○予算規模については予算の状況説明に記載のとおり、適正な規模となっている。 ○費目・使途についても必要なものに限定されており適切なものとなっている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with project details: 事業番号・事業名 (1-2), 環境保全・美化推進事業, 沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第3章-1-(1)-(ア)), 生物多様性の保全, 担当部課名 (建設環境課), 事業実施(予定)年度 (平成28~令和2年度), 沖繩振興基本方針該当箇所 (III-1-(1))

事業内容 野良犬、野良猫、ハブ対策として環境保全の作業員による保護・捕獲器の設置、回収を行い地域住民や観光客の安全確保を図る。また、猫の適正飼育の周知や、猫の譲渡強化等を図る。

効果発現年度 ■当年度 □後年度(年度)

実施方法 ■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()

Table with budget and execution details: 予算額・執行額 (単位:千円), H28年度, H29年度, H30年度, R1年度, R2年度. Includes rows for (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額, (d)繰越額, A.計(b+d), B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%)(B/A), and 予算の状況の説明 (不用額596千円は賃金の出勤日数の調整によるものである。)

Table with activity goals and achievement status: 活動目標(指標)及び達成状況, H30活動目標(指標), 達成状況 (H28年度, H29年度, H30年度, R1年度). Includes rows for 賃金作業職員(2人), 賃金調査職員(2人), 各保護・捕獲器の設置, and 猫の譲渡の実施. Includes 達成状況説明.

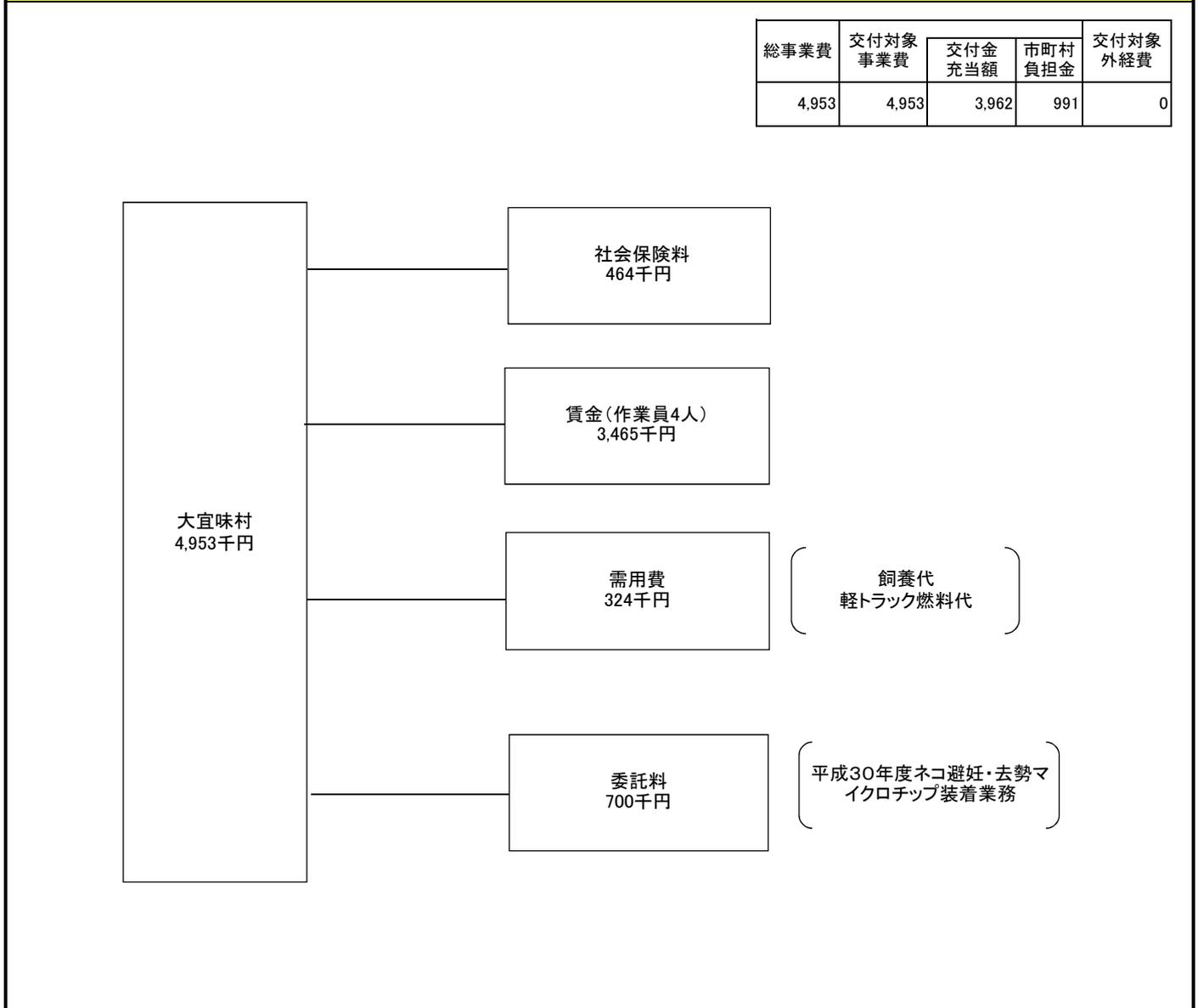
Table with achievement goals and progress status: 成果目標(指標)及び進捗状況, H30成果目標(指標), 基準値(年度), H28年度, H29年度, H30年度, 目標値(年度). Includes rows for ①ハブ咬傷被害:1件以下, ②ヤンバルクイナの生息率:16.7%以上, and ③保護した猫の譲渡:40件以上. Includes 進捗状況説明.

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ハブ咬傷被害の未然防止については、観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている地域へハブ捕獲器を設置しているが、咬傷被害が一定数あることから、咬傷被害減少への更なる注意喚起が必要であると考えます。 ・ヤンバルクイナの生息率については、野生化したネコの数と相関関係はあるが、因果関係は定かではない。 ・ネコの譲渡について、周知等を例年通り行ったが、目標達成には至らなかった。飼養している方も多頭飼育が多く見られ、飽和状態になっている可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハブ咬傷被害の未然防止について、継続して観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている地域へ捕獲器設置、ハブ咬傷被害があった個所の捕獲器設置を行い、咬傷被害減少への更なる注意喚起を行う。 ・ヤンバルクイナにとってネコは脅威であることから、野良ネコが増えないようにする取り組みが求められる。 ・ネコの譲渡に関して、周知を強化すると共に、適正飼育の徹底を促す。

今後の取り組み方針

- ・ハブ咬傷被害の未然防止について、継続してハブ捕獲器を設置し、観光地周辺へハブ咬傷被害防止の周知を行う。
- ・ネコの適正飼育及び、野生化したネコの保護、避妊去勢の推進を行う。
- ・ネコの譲渡に関して、広報誌や村ホームページ等を活用し周知を強化すると共に、適正飼育の徹底を促す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○賃金職員の採用については、村の規則に準じ採用した ○予算規模については、15%不用額を出したが、賃金職員の退職による不測の事態による予算残、委託費の入札残による為であり、事業規模は適正である。 ○費目・用途については、事業実施に必要な不可欠なものであり、計画・支出等に関する書類により確認・適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	学習支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	確かな学力を身につける教育の推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容 将来の大宜味村を担う大宜味村の児童生徒の基礎学力の定着を図る為、村内の小学校1校と中学校1校に学習支援員を配置する。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	10,976	10,911	8,818	11,108	11,175
	(b) 予算現額	10,931	10,911	8,802	10,046	11,175
	(c) 増減額(b-a)	▲ 45	0	▲ 16	▲ 1,062	0
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	10,931	10,911	8,802	10,046	11,175
	B. 執行済額	10,928	10,891	8,670	9,853	10,106
	うち交付金充当額	8,742	8,713	6,936	7,882	8,084
	次年度繰越額	-	-	-		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.8%	98.5%	98.1%	90.4%
予算の状況の説明	事業開始当初は学習支援員の人員確保ができていたが、11月より産休及び育休の取得が有り、その間人員の募集等を行っていたが代替えの支援員を確保出来ない状況があったため予算残額が出てしまった。					

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		小学校3名配置(低中高年各1名)	目標	(4小学校×1人)	(1小学校×3人)	(1小学校×3人)
	実績	4小学校×1人	1小学校×3人	1小学校×3人	1小学校×3人	
中学校2名配置	目標	(1中学校×1人)	(1中学校×1人)	(1中学校×2人)	(1中学校×2人)	
	実績	1中学校×1人	1中学校×1人	1中学校×2人	1中学校×2人	
達成状況説明	・村内の小学校1校に3名、中学校1校に2名学習支援員を配置した。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
		【30年度成果目標】 沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 小学校 0ポイント以上	目標	(-6ポイント)	(5ポイント以内)	(0ポイント以内)	(0ポイント以上)
		実績	/	+0.4ポイント	-6.4ポイント	-6.2ポイント	/
	【30年度成果目標】 沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 中学校 -1.5ポイント以上	目標	(-18ポイント)	(5ポイント以内)	(-1.5ポイント以内)	(-1.5ポイント以上)	()
		実績	/	-8ポイント	0.1ポイント	1.4ポイント	/
進捗状況説明	・成果目標の設定を沖縄県の到達度調査を用いて設定している。小学校においては県との比較ポイントを0ポイント以上としていたが、目標を達成できない状況であった。中学校においては目標を大きく上回る結果となった。						

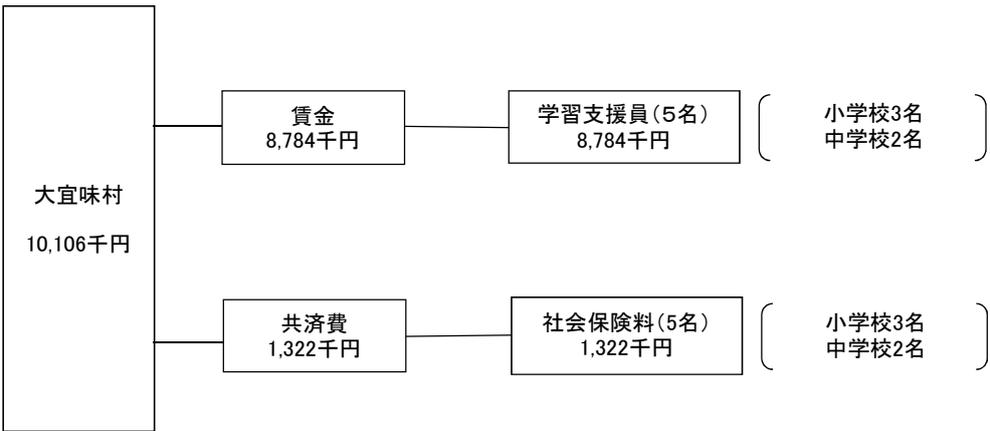
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては全教科平均点が沖縄県平均を-6.2ポイント下回ったが、前年比較においては0.2ポイントよい結果が得られた。 ・中学校において、全教科平均点が県平均を上回っており成果がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は沖縄県到達度調査において沖縄県平均を下回る結果となっているが、今後の取組として補習期間の拡大や各教室においての支援方法の改善が必要となっている。 ・中学校は引き続き支援人を2名配置し行き届いた環境の維持が求められる。

今後の取り組み方針

・小学校においては1校あたりの支援員配置人数が適正であったが、今後の学習支援について取組の改善を図る。
 ・中学校は、成果目標の達成状況から見ても、支援による効果が大きいため今後も維持していきたい。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
10,106	10,106	8,084	2,022	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。 ○予算規模については不用額は1,069千円であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要な支援員の賃金と共済費を支払った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	地域支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	III-3-(1)

事業内容 学校と地域の連携を充実させ、不登校やいじめ等に対して生徒を支援する地域支援員を配置する。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	2,195	2,182	2,216	0	2,235
		(b) 予算現額	2,186	2,195	2,200	0	2,235
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 9	13	▲ 16	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	2,186	2,195	2,200	0	2,235
	B. 執行済額		2,186	2,195	2,128	0	2,201
	うち交付金充当額		1,748	1,756	1,702	0	1,760
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	96.7%	#DIV/0!	98.5%
	予算の状況の説明		当初予算額提示後に学習支援員の社会保険料の精査を行った結果、予算執行額として35千円の執行残となっている。執行率において98.5%となっており、予算執行において適切だったと考える。				

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		地域支援員配置数 村内小中学校1人	目標	(1中学校×1人)	(1中学校×1人)	()
	実績	1中学校×1人	1中学校×1人		1小中学校×1人	
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	・地域支援員を小中学校に1人配置しており、不登校生徒の登校支援や登校後の校内学習・活動を主にサポートすることができる。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
		支援対象の不登校気味児童生徒のうち、不登校に至らなかった児童生徒の割合 小学校・中学校 100%	目標	() (60%)	()	(100%)
		実績	/	100%		100%
	目標	() ()	()	()	()	()
	実績	/				/
進捗状況説明	・今年度より成果目標の設定を、不登校気味の児童生徒を不登校にさせないことを目標とした。支援員の配置によりきめ細やかな支援が得られ、目標を達成することができた。					

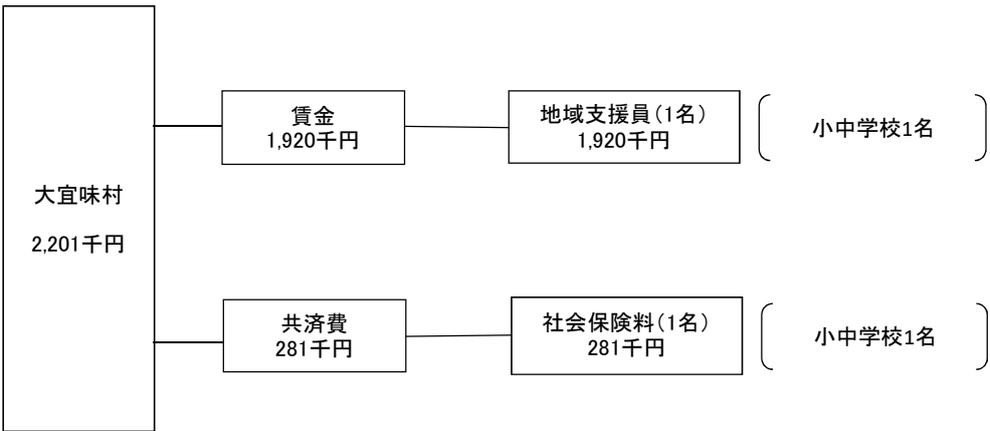
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援員だけでなく外部機関(教育委員会や民生員)と定期的に情報交換を行うことで、児童生徒を取り巻く諸問題に早急に対処できる体制となっていることが目標達成の要因と考えられる。 ・児童生徒間のトラブルや進学時の環境の変化への戸惑いから不登校気味になる場合もある。 ・現在、小学校において登校渋りの児童が複数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援員が主となり小中学校の養護教諭、貧困対策コーディネーター、教育相談員、児童クラブ代表で月一回の情報交換会を行い、児童生徒の諸問題等について密な連携がとれる体制が整っている。 ・その効果もあり、問題を抱える子供達一人一人に合った支援体制が望める。 ・登校渋りの児童においては、保護者が課題を抱えていることもあることから、家庭の巡回を行いつつ民生員や関係機関に繋げていくことで課題解決を図る。

今後の取り組み方針

- ・今後も地域支援員と教育分野(教育委員会、教育相談員)、福祉分野(民生員)との連携を図り、地域全体で児童生徒並びに保護者への支援体制を維持する。
- ・環境の変化が特に大きい小中学校進学時においては重点的なケアを行い、日々の児童生徒の交友関係にも気を配り、今後もきめ細かな支援を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,201	2,201	1,760	441	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。 ○予算規模については不用額は193千円であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要な支援員の賃金と共済費を支払った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	「ぶながやの里」地域人材育成支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-イ
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	生涯学習社会の実現
			沖縄振興基本方針該当箇所	III-3-(1)

事業内容 各社会教育団体の生涯学習活動及び青少年の学校外活動における学習機会の拡充を図り、その活動を通して本村の自然や文化、社会への基礎的な興味関心を培い、地域リーダーとなる人材の育成を図るため、生涯学習活動事業を展開する。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	2,285	2,517	2,306	2,477	2,523
		(b) 予算現額	2,285	2,517	2,261	2,477	2,535
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 45	0	12
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	2,285	2,517	2,261	2,477	2,535
	B. 執行済額		2,201	2,459	2,227	2,373	2,411
	うち交付金充当額		1,760	1,967	1,781	1,898	1,929
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		96.3%	97.7%	98.5%	95.8%	95.1%
	予算の状況の説明		事業計画どおり全て実施した。不用額124千円は消耗品数量の減などによるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		生涯学習講座 12回以上開催	目標	(10回)	(10回)	(12回)
		実績	11回	12回	13回	15回
		目標	()	()	()	()
		実績				
達成状況説明	・生涯学習講座を15回(青少年向け7回、成人者向け8回)開催し、目標を達成できた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(H25年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
		講座受講者数 276名	目標	(100名)	(100名)	(120名)	(276名)
		実績		226名	391名	394名	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・生涯学習講座(青少年向け7回、成人者向け8回、計15回)を開催し、講座受講者数は合計394名となり、目標を達成できた。						

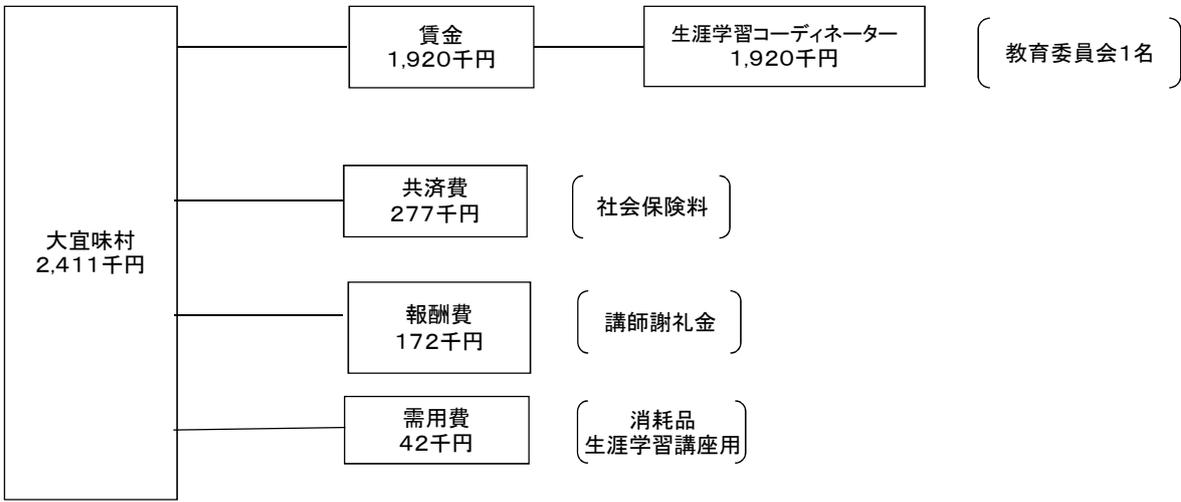
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を大きく上回る受講者数となり、多くの住民に学習機会を提供することができている。 ・講座受講について、学校行事や村の行事、部活等の日程との重なりのため参加できないという場合があった。 ・青少年向けの講座は特に参加者が年々増加しているが、子ども達の活動を見守るスタッフの確保が難しい状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も住民の学習機会拡充のため、生涯学習講座を開講する。 ・学校行事や村イベント等と日程が重複しないよう調整を行う必要がある。 ・学校、保護者及び地域住民などと連携し、スタッフの確保を図り、安定的かつ安全性の高い運営が行えるような仕組みが必要である。

今後の取り組み方針

- ・広報誌や村ホームページも活用し、住民への周知を強化する。
- ・既存の講座は休日開講が主であったが、受講者のニーズに応じて平日の開講も検討していく。
- ・スタッフの確保を推進するとともに、スタッフの人数に応じた運営方法を検討する。
- ・本事業の目的は人材育成であることから、講座受講者数については参考指標に留め、講座への満足度や理解度についてのアンケートを行い、住民の興味・関心について把握するとともに、事業効果の検証を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

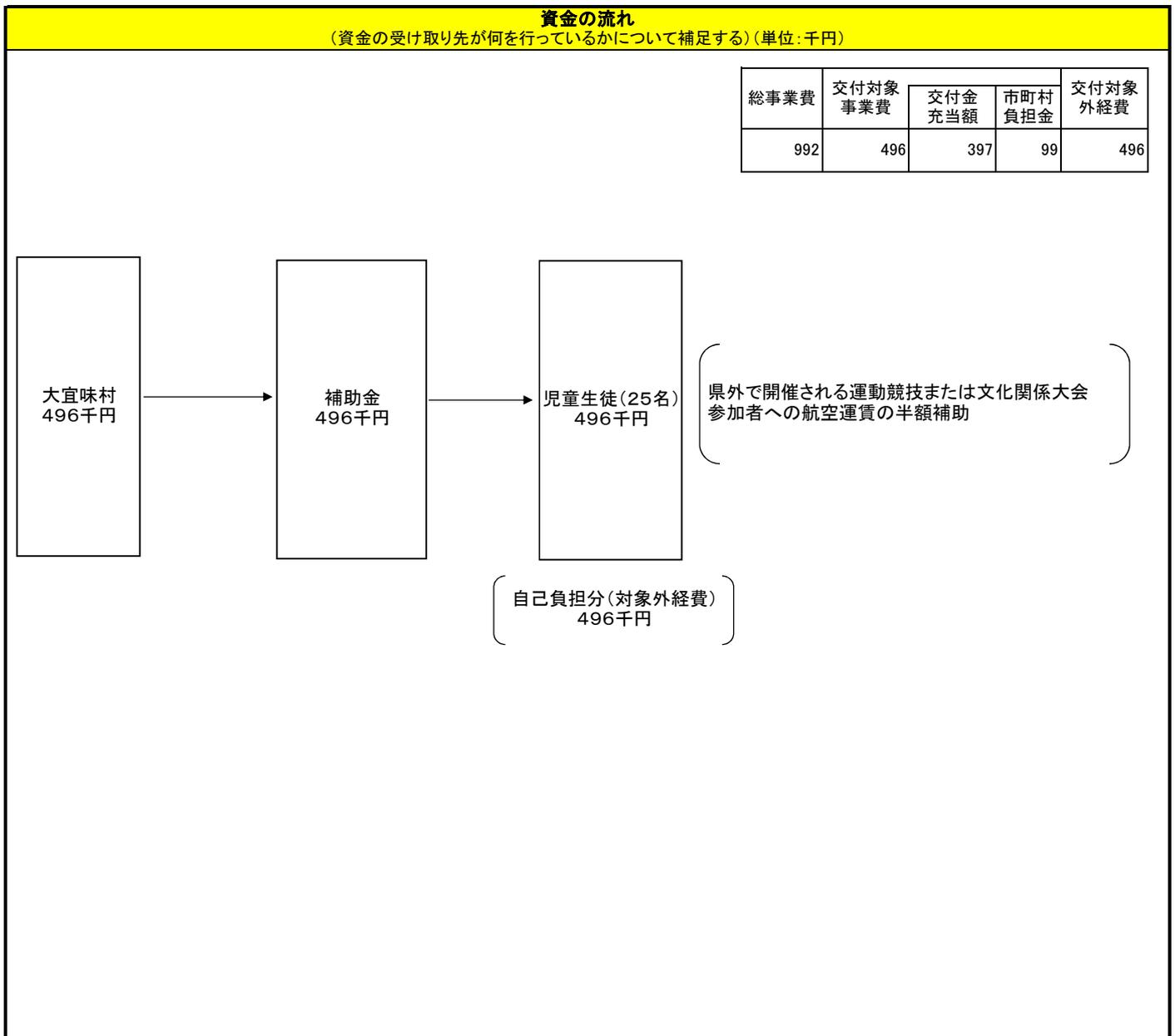
総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,411	2,411	1,929	482	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○大宜味村生涯学習コーディネーター配置要綱に基づき採用した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は5%であり予算規模及び事業内容については適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	児童生徒等県外派遣支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ	
担当部署名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成26~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	大宜味村に在住する児童・生徒(小学校・中学校・高校生)に対し、県外で開催される運動競技又は文化関係の大会に、予選及び審査等の結果、代表として参加する際の派遣費用を補助する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	846	1,122	1,075	925	901
		(b)予算現額	846	722	500	540	688
		(c)増減額(b-a)	0	▲400	▲575	▲385	▲213
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	846	722	500	540	688
	B.執行済額		256	654	359	520	496
	うち交付金充当額		204	523	287	416	397
	次年度繰越額		-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)		30.3%	90.6%	71.8%	96.3%	72.1%
予算の状況の説明		・実績が派遣回数を下回ったため213千円の減額を行った。 ・192千円については活用見込みがあったため確保していたが、派遣期間が年度をまたぐこととなり、申請できず不用となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	児童生徒への県外派遣支援		目標 (42名)	(派遣費の一部を補助)	(派遣費の一部を補助)	(派遣費の一部を補助)	
		実績	40名	22名	29名	25名	
達成状況説明		次のとおり、25名の児童生徒の派遣を支援した。 第47回ゴーセン杯争奪ハイスクールジャパンカップソフトテニス2018(北海道)1名派遣 平成30年全九州高等学校体育大会ホッケー競技大会(佐賀県)2名派遣 平成30年度全九州高等学校体育大会・第71回全九州高等学校ソフトテニス競技大会(宮崎県)2名派遣 平成30年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス競技大会(三重県)1名派遣 第49回全国中学校ソフトテニス大会(広島県)11名派遣 第50回九州ジュニア水泳競技大会(鹿児島県)1名派遣 第13回九州小学生ソフトテニス研修大会(団体戦)・第23回九州小学生ソフトテニス選手権大会(個人戦)(福岡県)4名派遣 第48回全九州高等学校新人ソフトテニス競技大会・第44回全日本高等学校選抜ソフトテニス競技大会九州地区予選会(熊本県)2名派遣 第39回九州カップ水泳大会(福岡県)1名派遣					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が県内ではできない経験をする事ができたとの回答割合80%以上		目標 ()	(80%)	(80%)	()	()
			実績	100%	100%		
進捗状況説明		平成30年度に実施した保護者へのアンケートでは、「県内ではできない経験をする事ができたか」の設問について、「大変できた」との回答が100%であり、目標を達成することができている。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・県外派遣を実施することで、全ての保護者が児童生徒が県内ではできない経験をすることができたと回答しており、本事業の成果が表れている。 ・派遣した児童生徒の活動報告からも満足度が高いことが窺える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは好結果となっているが、児童生徒の振り返りを深めるためアンケート項目の見直しを検討する。
	今後の取り組み方針	
<p>アンケートにて児童生徒がどのような経験ができたかを、具体的に把握することに努め、毎年度はじめに行う村内の小中高校への派遣事業の周知や、村広報誌を活用した全世帯への周知を行い、県外での大会派遣を引き続き支援していく。</p>		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○支出先の選定方法は、交付要綱に基づいた対象となっている。 ○予算規模は事業内容に見合った適切な規模となっているか。 ○受益者との負担関係は対象費用の5割で妥当としている。 ○費目・使途は事業目的に即した必要なものと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適切な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名 大宜味村

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	低炭素社会構築事業(省エネ設備導入促進事業)	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ウ
担当部署	総務課	事業実施(予定)年度	平成28年度～平成30年度	低炭素都市づくりの推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	III-10

事業内容 防犯灯に環境負荷の少ないLED照明を整備し、二酸化炭素排出量の抑制を図る。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H28年度	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	R1年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	3,013	90,000	—	32,000	
		(b) 予算現額	3,176	100,000	—	24,700	
		(c) 増減額(b-a)	163	10,000	—	▲ 7,300	0
		(d) 繰越額			21,000		
		A. 計(b+d)	3,176	100,000	21,000	24,700	0
	B. 執行済額		3,055	76,231	18,136	23,425	
	うち交付金充当額		2,444	60,985	14,508	18,740	
	次年度繰越額		—	21,000	—	—	
	執行率(%) (B/A)		96.2%	76.2%	86.4%	94.8%	#DIV/0!
	予算の状況の説明		当初計画していた事業内容を実施し、順調に執行することができた。なお、予算の減額については、一部の防犯灯の負荷容量を設計見直しにより当初設計の減額及び入札残によるもので、変更申請を行い7,300千円の減額を行った。				

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		LED防犯灯取替工事の実施	目標 (工事実施設計書の作成)	(実施)	(実施)	(実施)
		実績 工事実施設計書	完了	完了		
		目標 ()	()	()	()	
		実績				
達成状況説明	当初計画していた事業内容は全て実施し、順調に執行することができた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
		二酸化炭素排出削減量 6.191t-CO2/年	目標 ()	(設置箇所・個数の決定)	(4.77t-CO2)	(6.191t-CO2)
		実績	設置箇所・個数の決定をした。	1.643t-CO2	1.803t-CO2	
		目標 ()	()	()	()	()
		実績				
進捗状況説明	当初平成30年10月末完了予定し、平成30年11月1日～3月31日(151日間)までの期間の6.191t-CO2の削減量を成果目標として設定していた。発注時期の遅れと工期の延長に伴い2月中旬に工事完了がなされ、平成31年2月15日～3月31日(44日間)の削減量が1.803t-CO2の実績となったが二酸化炭素排出削減は行うことができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本村では地球温暖化に大きな影響を及ぼす二酸化炭素の排出抑制に取り組む事業として、村内の防犯灯をLED照明への取替工事を実施した。二酸化炭素削減量6.191t-CO2を目標と設定したが、1.803t-CO2の削減量となった。発注の遅れと工期の延長に伴い削減量の算定日数が少なくなったことで二酸化炭素削減量が減少するため成果目標を達成できなかったことが要因としてあげられる。</p> <p>平成30年度事業完了後における二酸化炭素削減量は取替前に比べ1日当たり0.041t-CO2で、年間換算では14.965t-CO2となる。事業後、副次的なものとしてLED照明への改修により住民の防犯意識の高まりがみられた。</p>	<p>事業完了後、住民の防犯意識の高まりに伴い、本事業の説明機会が増え、温暖化防止への周知啓発につなげることができた。</p>

今後の取り組み方針

村による温室効果ガス排出量削減に向けた取組や本事業の効果を周知するとともに、広報誌等に掲載し低炭素社会の実現に向けた意識啓発を図る。本事業で取替を行った自治会等に対しては、省エネ設備導入の効果を周知することで、構成員への普及啓発を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
23,425	23,425	18,740	4,685	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○工事については、指名業者選定から指名競争入札を行っており、選定方法は妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模は事業内容に見合った適正な規模であったと考えている。</p> <p>○費目・使途について、事業目的の達成のために必要なものであるということを額の確定時において支出時に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		大宜味村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	カラキ活用推進プロジェクト		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-(イ)		
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成28~令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 III-1-(4)		
事業内容	カラキ(オキナワニッケイ)をシナモンとしての価値に着目し村内の地域資源として活用し、苗木生産から一次加工、商品開発・ブランド構築までを一貫して行い、地域内連携を推進しながら農林業の振興、観光の振興、人材育成等の地域振興を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和4年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a)当初予算額	12,690	7,389	10,046		
		(b)予算現額	13,525	6,871	9,646		
		(c)増減額(b-a)	835	▲518	▲400	0	0
		(d)繰越額	-	-		-	
		A.計(b+d)	13,525	6,871	9,646	0	0
	B.執行済額		13,039	6,731	9,588		
	うち交付金充当額		10,431	5,384	7,670		
	次年度繰越額		-	-		-	
	執行率(%) (B/A)		96.4%	98.0%	99.4%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		不用額58千円は、作業日数の減と消耗品執行残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・苗木の栽培育成	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
	・加工の実施体制	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
	・成分分析	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
	・商品開発	目標	()	()	(実施)	()	
		実績			実施		
・販路開拓、販売促進	目標	()	()	(実施)	()		
	実績			実施			
・挿し木8,000本の実施	目標	(4,000本)	(6,000本)	(8,000本)	()		
	実績	4,000本	6,000本	8,000本			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・味・香りの優良な系統を挿し木による増殖を行い、栽培育成を実施した。 ・カラキの1次加工及び2次加工の際に必要な機械や施設について加工の実施体制について検討を実施した。 ・オキナワニッケイの特性・特徴を把握する味・香り・機能性等を分析を行った。 ・商品開発ワークショップの内容を基に商品開発を行った。 ・販路開拓及び販売促進のために開発した商品を村産業まつりにおいてカラキのPRと試作品の試食とアンケートを実施した。 ・8,000本の挿し木を実施した。 						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値 (年度)	H30年度	R1年度	目標値 (R4年度)
	・挿し木8,000本の完了	目標	()	(完了)	()
実績			完了		
・成分分析(乾燥葉・粉末)の完了	目標	()	(完了)	()	()
	実績		完了		
・市場調査の完了	目標	()	(完了)	()	()
	実績		完了		
・商品の開発 1品	目標	()	(完了)	()	()
	実績		完了		
【R4成果目標】 ・開発した商品を活用し村内事業者11店舗以上	目標	()	()	()	(11店舗)
	実績				
進捗状況説明	<p>・挿し木の増殖については、8000本の挿し木をすることが出来た。 ・乾燥葉・粉末の保存による成分の変化について分析を実施した。 ・村の産業まつりにおいて開発した商品を用いて市場調査を完了した。 ・商品開発についてはカラキの特徴を生かすことを考慮に入れて検討し2品の開発を実施した。</p>				

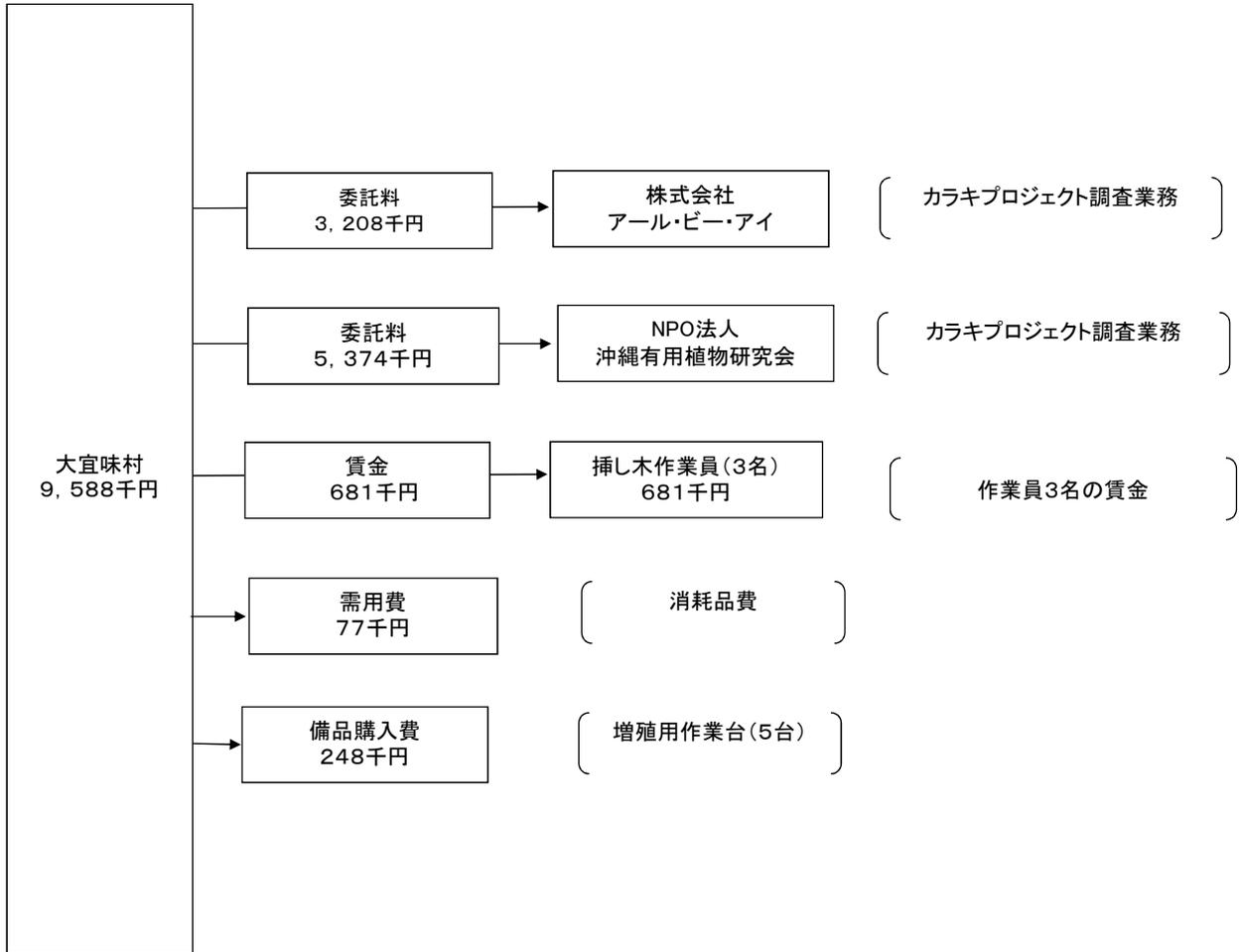
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・挿し木の増殖については限られた優良母樹から苗木を採って増殖しているため、今後は挿し穂の確保が課題となる。 ・成分分析についてはシナモンとの違いを示すための分析をする必要がある。 ・市場調査については大宜味村以外の地での調査を行う必要がある。 ・商品開発についてはカラキの味以外の訴求要素も検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿し穂の確保については増殖方法のさらなる改善の検討をする必要がある。 ・栽培園地への苗の定植方法について、効率的かつ省力的な方法を検討する。 ・カラキとシナモンの違いを成分分析で示すことを検討する。 ・村以外の場所で市場調査が出来ないか検討する。 ・商品開発については見栄えも重視した開発を行う必要がある。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・苗木の増殖については、活着率を高める栽培方法を検討し、定植可能な本数を増やす取り組みを行う。 ・また、定植についても効率的な方法を検討する。 ・葉の収穫量が多くなる枝の仕立て方の検討に取り組む。 ・1次加工・2次加工についても引き続き、関係者と話し合いを続け、持続的にカラキの加工・商品化が出来るよう取り組む。 ・成分分析についてはシナモンとの成分の違いを分析検討する。 ・市場調査及び商品開発については、イベント等を活用してシナモンとの違いなどをPRしながら行う。 ・また、食品関係者へも広くPRするためのシンポジウムの開催を検討する。 ・商品化の方法については県内の食品メーカーや洋菓子店舗と交渉し、協同で製造販売出来る体制の構築に取り組む。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,588	9,588	7,670	1,918	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル方式により契約事業所を選定し随意契約を締結しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の0.6%であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	大宜味村幼保連携型総合施設整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-(イ) 地域における子育て支援の充実
担当部署名	子ども子育て支援室	事業実施(予定)年度	平成28年度～令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所 Ⅲ-4

事業内容
子どもを産み育てやすい環境を整備する為、働く保護者等の子育て支援の充実を目的に、就学前の幼児教育・保育を一体的に提供することができる幼保連携型総合施設の整備を行う。

効果発現年度 当年度 後年度(令和2年度)

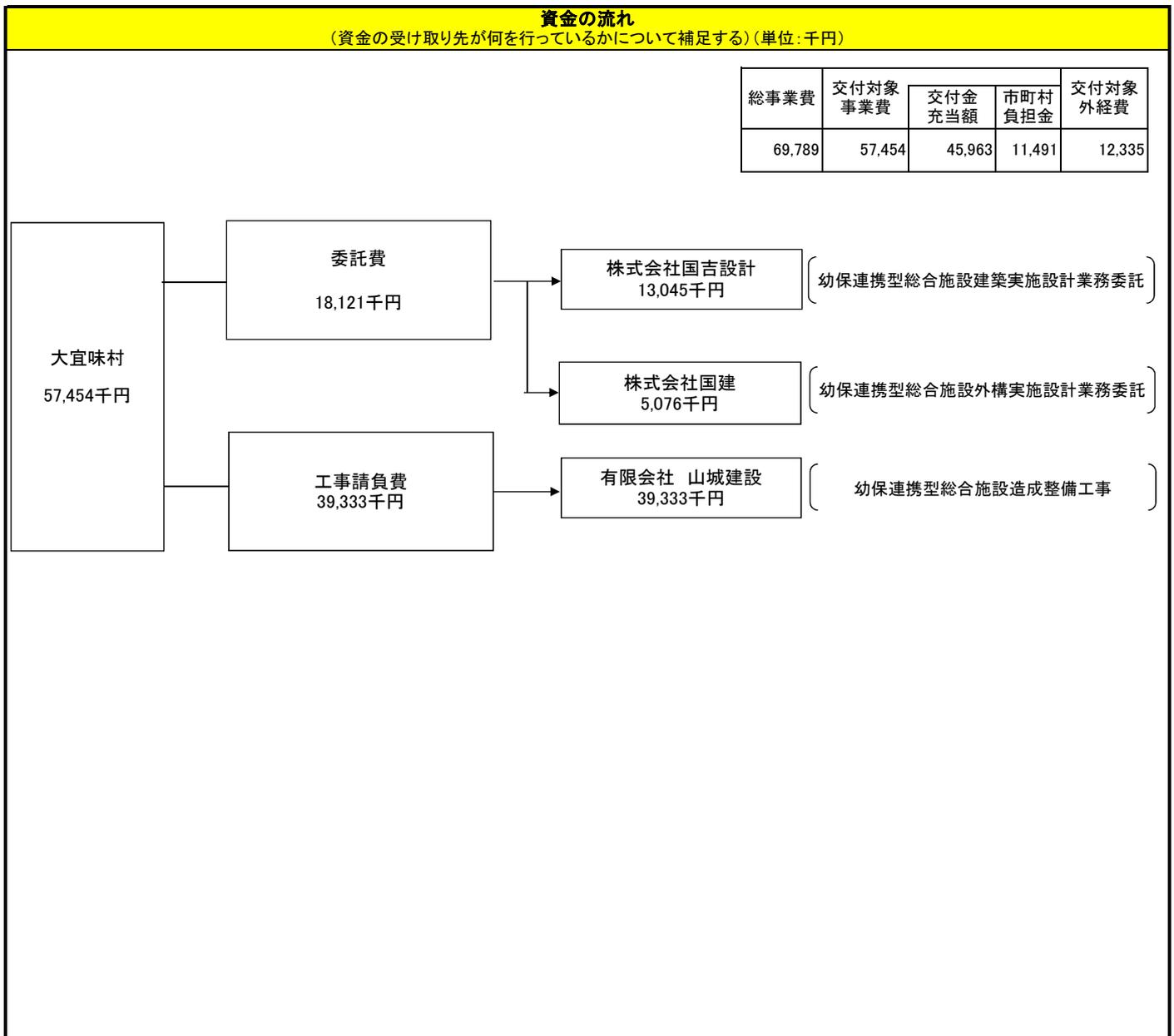
実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	4,644	-	17,159	-	64,918
		(b) 予算現額	4,644	-	17,159	-	58,934
		(c) 増減額(b-a)	0	-	0	-	▲ 5,984
		(d) 繰越額	0	4,644	0	15,070	0
		A. 計(b+d)	4,644	4,644	17,159	15,070	58,934
	B. 執行済額		0	4,644	2,089	12,206	57,454
	うち交付金充当額		0	3,715	1,671	9,764	45,963
	次年度繰越額		4,644	0	15,070	-	0
	執行率(%) (B/A)		0.0%	100.0%	12.2%	81.0%	97.5%
	予算の状況の説明		減額については入札残によるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況			
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
・実施設計業務の実施 ・用地測量業務の実施 ・造成工事の実施	目標	実施設計業務、用地測量業務、造成整備工事の実施	()	()	()
	実績	実施設計業務、用地測量業務、造成整備工事の完了			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	・平成30年12月に建築実施設計、外構実施設計を完了し、平成31年2月に造成整備工事を完了し、平成31年3月に用地測量業務を完了した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	H30年度	R元年度	R2年度	目標値(R2年度)
		目標	(実施)	()	()
	実績	完了			
	【R2成果目標】 子育て支援が充実したか(80%以上)を含め、当該施設のあり方についてアンケート調査により検証する。	目標	()	()	()
進捗状況説明	・平成30年12月に建築実施設計、外構実施設計を完了し、平成31年2月に造成整備工事を完了し、平成31年3月に用地測量業務を完了した。				

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	実施設計業務については予定どおり実施することができたが、造成工事について工期の延長を年度途中で行っており、次年度については施設開園に向け円滑な事業を実施する必要がある為、関係機関との工期設定及び工程管理を徹底する必要がある。	施設開園に向け円滑な事業を実施するため、関係部署及び請負事業者との工期設定及び工程管理を徹底する必要がある。
	今後の取り組み方針	
関係部署及び請負事業者と定期的に工事の工程会議等を実施し、工程管理の徹底に取り組む。		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事業者については、指名競争入札で選定しており妥当であったと考える。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-①	消防救助艇及び資機材搬送車整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成30年度	災害に強い県土づくりと防災体制の強化
			沖縄振興基本方針該当箇所	III-10-(2)

事業内容 水難事故等における住民や観光客等の安全の確保を図るため、救助艇・牽引車両等を整備する。

効果発現年度 当年度 後年度(令和元年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H30年度					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	5,072				
		(b) 予算現額	4,040				
		(c) 増減額(b-a)	▲1,032				
		(d) 繰越額	-				
		A. 計(b+d)	4,040				
	B. 執行済額		4,040				
	うち交付金充当額		3,232				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	予算の状況の説明		当初計画していた事業内容を実施し、順調に執行することができた。なお、予算の減額については、入札残によるもので1,032千円を減額変更申請を行い、100%の執行率となっている。				

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
		目標	H30年度			
消防救助艇の整備 消防救助艇 1台	目標	(消防救助艇1台)	()	()	()	
	実績	消防救助艇1台				
資機材搬送車の整備 資機材搬送車 1台	目標	(資機材搬送車1台)	()	()	()	
	実績	資機材搬送車1台				
達成状況説明	消防救助艇1台、資機材搬送車1台を整備し、目標を達成した。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R1年度)	
		消防救助艇及び資機材搬送車の整備	目標	()	(整備)	()	()
	実績			整備			
	【R1成果目標】 水難救助訓練(1回/月)を実施することにより、消防救助艇及び資機材搬送車の活用あり方について検証する。	目標	()	()	()	()	(1回/月)
		実績					
進捗状況説明	国頭地区消防本部において、消防救助艇1台、資機材搬送車1台を整備した。救助艇・資機材搬送車の納入後において操作研修も兼ねて水難救助訓練を行った。						

